

国語プリント No. () ()

配布日 月 日 曜

年 組 番 名前

百人一首をよむ 黄

歌枕 1 「歌枕」 古来より歌の中に詠み込まれた諸国の名所。

60 大江山 いくの道の遠ければまだふみもみずあまの橋立

() () () () () ()

小式部内侍

【歌意】大江山を越えていき、生野を通って行く道のりは遙かに遠いから、まだ天橋立の地を踏んでもいけませんし、(母からの)文も見えてはいません。

【語句】大江山……京都から丹波に越える老ノ坂の大枝山。「歌枕」

生野……京都府天田郡にある地名

遠ければ……遠いので

天橋立……京都府宮津湾の名勝。日本三景の一つ。

【歌の背景】

母和泉式部が夫の任地丹後にいたとき、小式部が歌合の作者の一人に選ばれたので、中納言定頼が冗談に「母君が不在で心細いですね、歌の相談に使いはりましたが、使いは帰ってきませんか」とからかったので、その袖を押さえて読んだのがこの一首である。

78 淡路島かよふ千鳥のなく声にいく夜ねざめぬ須磨の関守

源兼昌

【歌意】淡路島へ飛び交う千鳥の(もの悲しく)鳴く声で、幾晩目を覚ましたことだろうか、須磨の関の番人は。

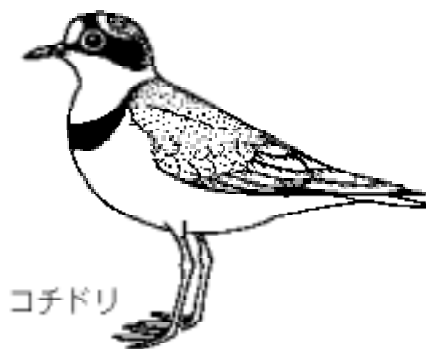
【語句】淡路島……明石海峡の西南の島。「歌枕」

かよふ……飛び交う

幾夜ねざめぬ……幾晩寝覚めたのだろうか？

須磨……神戸市須磨区の海岸「歌枕」

関守……関所の番人



コチドリ